

平成23年(2011年)1月1日発行

年頭の辞

現場への想像力を

高めてほしい



学長 柳澤 章

新年、あけましておめでとうでございます。2011年がよい年となることを願います。

わけです。

現場とは、直接手で触れ、目で確かめることのできる対象に限定されるわけではなく、今やあらゆる事象がエンジニアの取り組むべき「現場」といえます。例えば超微細工学技術においても人が生活を営み、活動をする空間のデザインにおいても、情報システムの設計においても、そのように。

現場を重視し、現場をつぶさに見つめ、そこから新たな技術的ヒントを見出し、かたちに成果を出す。それは日本工業大学の実工学の姿勢そのものです。私たちがやぶさの成功から学べることのひとつは、現場が目の前になく、たとえ60億キロかなたであっても、考えられるあらゆる手を尽くすという姿勢です。それによって、交信が途絶えた現場とのつながりを復活させ、見えない現場を「可視化」し、現場を引き寄せることを成し遂げ、成果に結びつけた

現場を重視し、現場をつぶさに見つめ、そこから新たな技術的ヒントを見出し、かたちに成果を出す。それは日本工業大学の実工学の姿勢そのものです。私たちがやぶさの成功から学べることのひとつは、現場が目の前になく、たとえ60億キロかなたであっても、考えられるあらゆる手を尽くすという姿勢です。それによって、交信が途絶えた現場とのつながりを復活させ、見えない現場を「可視化」し、現場を引き寄せることを成し遂げ、成果に結びつけた

現場を重視し、現場をつぶさに見つめ、そこから新たな技術的ヒントを見出し、かたちに成果を出す。それは日本工業大学の実工学の姿勢そのものです。私たちがやぶさの成功から学べることのひとつは、現場が目の前になく、たとえ60億キロかなたであっても、考えられるあらゆる手を尽くすという姿勢です。それによって、交信が途絶えた現場とのつながりを復活させ、見えない現場を「可視化」し、現場を引き寄せることを成し遂げ、成果に結びつけた

第2回エコ大学ランキング 私立大学部門で第1位獲得！

エコキャンパスフォーラム2010にも出席



表彰式に出席した柳澤学長(左端)と長田君(左から2人目)

昨年11月4日(木)、CCC(Campus Climate Challenge)実行委員会(第2回)エコ大学ランキングにおいて、本学が私立大学部門第1位を獲得した。国立大学も含まれた小規模大学部門(学生数5000人未満)でも第1位、全国総合では第4位であった。

同委員会は全国青年環境連盟(エコ・リーグ)を中心として複数の大学の環境サークル等によって結成された。国内大学のCO2排出状況等の調査を行い、表彰する「エコ大学ランキング」を主催している。本学は今回の審査において、国内大学No.1の規模を誇る太陽光発電(463.1kW)や風力発電(5kW)の自然エネルギーを利用したCO2削減への取り組み、「環

境分野研究奨励助成金」の設置など環境教育・研究の充実、環境保全活動における学生との連携などが評価された。表彰式は同日、東京都渋谷区のJICA地球広場で行われ、本学から柳澤学長、学生環境推進委員長(当時)の長田知之君らが出席。柳澤学長は、第1位獲得の喜びと本学の教育理念である「実工学教育の紹介」09年に環境系の2学科を新設したことを説明したうえで「今後も環境意識を醸成し、技術者の育成を通じて社会に貢献していきたい」と語り、長田君は「今回の1位獲得を機に、より一層学生や大学、さらには地元



フォーラムには各大学から多くの学生が参加。本学から出席した成田教授(左)と佐藤教授(右)

の宮代町を巻き込んで、環境活動と地域連携活動を推進していきたい」と抱負を語った。(3面に関連記事) また11月20日(土)には、同委員会主催の関連イベント「エコキャンパスフォーラム2010」が代々木オリンピックセンターで開催された。私立大学部門1位の本学と国立大学部門1

平成22年度 産学連携による金型人材育成事業



機械工作センターにおける「ヤスリかけ演習」

候補社員などを対象に実証授業を5月26日から11月4日までの5カ月間に渡って、本学の宮代キャンパスと神田キャンパスにおいて実施した。実証授業は、開発したカリキュラム、講義内容・資料が受講生からみて魅力あるものかを検証するとともに、その検証を踏まえ、必要に応じて、カリキュラムの構成、各科目の授業内容・資料を改訂することを目的としている。

この実証授業では、新入社員向け(U1/2)に7科目、中堅社員向け(U3/4)に18科目、幹部候補生向け(U5)に4科目を対象に、それぞれ10名程度の社会人受講生が参加し、座学だけでなく、学内の機械工作センター、CAD/CAM/CAE演習室、プレス及びプラスチック成形機器・設備等を利用して演習を実施した。この実証授業の講師においては、講義内容・資料の開発を行った本学工学部機械工学科の古閑教授、村田教授、神教授の他に、外部の技術士・技術コンサルタントなどの先生が担当した。

本学では、経済産業省の産学連携人材育成事業、産学人材育成パートナーシップ事業」の制度を活用して平成20年度より3力年の予定で高度金型人材の育成を目指した「金型関連企業を多様な人材ニーズに対応できる段階的な人材育成プログラムの開発・実証」事業を進めている。平成22年度は、21年度の2力年に渡って開発したカリキュラムに基づいた講義内容・資料を使って、金型関連企業から派遣された新入社員、中堅社員、幹部

正門閉鎖のお知らせ

現在宮代キャンパスでは、本館ロタリー改修工事に伴い「正門」を閉鎖し、ロタリーを通行止めとしております。ご来学の際、歩行者の方は「学友門」、自動車の方は「北門」をご利用ください。また、守衛所についても「北門」横に仮移転しております。皆様には、長らくご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

- 閉鎖予定期間:平成23年3月15日(火)まで
●閉鎖場所:本館玄関及びロタリー周辺

日本工業大学 平成23年度入試日程

Table with columns: 入試種別, 日程, 一般入試A, 一般入試B, 特別奨学生入試, センター利用入試

- AO入試を第5期まで実施。
●各入試の詳細はそれぞれの「募集要項」でご確認ください。
[入試チェックポイント]
① 一年次の学費半額免除! [特別奨学生入試 第2期 他大学との併願可]
② 入試奨学金 20万円 [一般入試、センター利用入試 優秀者]
③ 入学検定料 割引制度 [一般入試、センター利用入試、特別奨学生入試 第2期 複数日受験・複数学科受験など割引]
④ 全国12ヶ所受験会場 [一般入試]
⑤ 2月・3月に受験できます [一般入試、センター利用入試、AO入試]

募集要項(願書)のご請求およびお問い合わせ先 〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 TEL.0120-250-267(入試室) URL: http://www.nit.ac.jp/ E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

メールマガジン 好評配信中! PC http://www.nit.ac.jp/info/Mailmaga_entry 受験生の方が対象です。登録は右記からどうぞ。携帯 http://www.nit.ac.jp/k/Mailmaga_entry

社会人大学院生 募集! (日本工業大学 社会人特別選抜)

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程 ●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻

本学で先端技術研究の取り組みを

Table with columns: 出願期間, 試験日, 試験内容, 合格発表, 入学手続締切

働きながら学べる専門職大学院 第7期生 募集!

日本工業大学 専門職大学院 (大学院技術経営研究科技術経営専攻) 中小企業技術経営コース/プロジェクトマネジメントコース/新事業創造・起業コース

Table with columns: 出願期間, 試験日, 合格発表, 入学手続締切日

願書のご請求およびお問い合わせ先: 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 日本工業大学 専門職大学院 TEL: 03-3511-7591 FAX: 03-3511-7594

第42回若杉祭開催報告

11/6にホームカミングデー、11/7に建築設計競技表彰式も実施

第42回若杉祭が11月5日(金)から7日(日)まで開催された。今年のテーマは、「花音kanonエーデルワイス」。「花音」とかいて「カノン」と読むこのテーマは、来場者や参加団体が若杉祭という音楽をつくり、共に楽しんでいただきたいという気持ちで込められていた。そんな大学祭実行委員会の思いが通じたか天候にも恵まれ、来場者は3日間で延べ1800人となった。

42回目を迎えた今回の大学祭は、例年通り出店あり、ライブありの盛りだくさんの企画が目白押しだった。初日のオープニングパレードから始まり、2日目はアニメ声優や人気お笑い芸人のトーク&ライブ、3日目は若杉祭最大のイベントである「秋のからっ風こんさあと」。本年は「ベッキー♪＃」を招きライブが行なわれ、会場は多くの観客が訪れ熱気と興奮で大いに盛り上がった。会期中は、2日目に第11回ホームカミングデー、3日目に建築設計競技表彰式が行われ、後夜祭ではこれも恒例となった花火が打ち上げられ、大盛況のうちに幕を閉じた。



(上段)若杉祭で行われた様々なイベント (下段左)後夜祭のステージ (下段中央)ホームカミングデー集合写真 (下段右)建築設計競技表彰式

正道寺教授が日本経営工学会員貢献賞、日本画像学会功労賞を受賞



情報工学科の正道寺勉教授は昨年5月14日、日本経営工学会の学会員貢献賞を受賞した。学会論文誌の査読委員、学会北関東支部運営委員並びに副支部長、北関東支部主催の年次大会実行委員並びに座長を務めるなどの功績により、学会創立60周年を記念して贈られた。また、6月9日には日本画像学会の功労賞を受賞。同学会の理事、企画委員会、運営委員会副委員長、法人

化検討委員会等の委員を歴任し、画像技術用語集(改訂版)を用語委員会主査として纏め上げた。さらに、同学会主催の国際会議等の座長を務めるなどの功績がたたえられたものである。

今回の2学会からの受賞に際し、同教授は「学会活動はボランティア活動で、大学のご理解と多くの方々のご協力を戴いたことによる受賞ではあるが、微力ながら大学人として社会に貢献できたことは大変幸せに思っている。今後もこれら賞に恥じないよう、頑張りたい」と語っている。

中里教授らが日本時計学会から青木賞を受賞



昨年9月10日、創造システム工学科の中里裕一教授らがシート形状記憶合金のマイクロアクチュエータへの応用に関する研究で日本時計学会から青木賞を授与された。この研究では微小物の把持にシート形状記憶合金を適応し、二本指で把持動作が可能なマイクロマニピュレータの実現に成功。従来にはない柔軟な動き、力覚制御の向上などが技術の進展に大きく寄与している。

たとして、評価された。微小機械実現への第一歩として、時計部品だけでなくウェアブル情報機器やセンサ、記憶装置などの開発にも有効と考えられる。

同教授は、時計関係だけではなく、情報・光学機器メーカ等の実用的な論文を多く集めた「マイクロメカトロニクス」誌での掲載論文であったため、本学の「実工学」が評価された形になり大変嬉しい。今後も実用領域にあるマイクロメカニクスやロボット工学関連の研究を行っていききたいと語っている。

平成23年度卒業生への求人情報公開開始

平成24年3月卒業見込者の就職活動が昨年10月から始まっている。本学に寄せられた求人情報は12月15日(水)から公開しており、昨年度文科省学生支援プログラムに採択された「就職総合支援システム」により、自宅のパソコンからでも希望する企業の検索が可能。この情報で多くの卒業生が内定を得ているので、積極的な活用を望む。

伴准教授が岩木賞、特別賞を受賞



創造システム工学科の伴准教授が昨年10月28日、岩木トライポコーティングネットワークアワード(岩木賞)特別賞を受賞した。業績名は「ナノ粒子含有薄膜形成用コロイドブリカサプラズマCVD法の開発」。

この業績では、従来に無い新しい手法を開発し、ナノ粒子を分散含有する薄膜の形成に成功。表面改質・コーティング分野において高い水準にあり、新規・独創性に優れる、として評価された。例えば医療機器や生活用品などへの抗菌性コーティングとしての適用、省エネ化やオイルフリーによる環境負荷低減効果など、多様な材料系の組合せにより発現する機能も多岐に渡るため、多種多様な産業分野への応用が期待される。受賞に際し同准教授は「長年の研究成果が評価されて大変うれしい。担当学生の長谷川直哉君、清水裕章君には大変感謝している。今後は医療分野に適用し、社会に還元していきたい」と語っている。

神教授が日本ばね学会賞技術賞を受賞



機械工学科の神雅彦教授が昨年11月5日、日本ばね学会賞技術賞を受賞した。論文名は「超音波振動応用コイルばね製造技術及び第2報」。この研究では、コイルばね製造過程において超音波振動を応用する技術を開発し、村田発條と共同で度向上ならびに材料歩留まりの向上に寄与する画期的な製造技術として評価された。今後は、この基礎的な研

究成果をもとに、量産研究を実施する予定であり、さらに、線径が50μmという極微細コイルばね製造の研究も進行中である。

受賞に際し同教授は「この研究は平成19年度から栃木県の委託事業」として「コンソーシアム事業」として実施され、小職が座長となって栃木県企業4社と行った超音波振動技術研究の1つの成果である。今また一生懸命研究してきた強力超音波振動の利用技術が日本の「ものづくり」の役に立てれば、大変うれしい」と語っている。

第5回ビジネスプランコンテスト 表彰式・講演会開催報告

11月5日(金)、本学学友会館において、受賞者22件の表彰式が、柳澤学長、宮代町長により行われた。その後、学長賞・宮代町長賞・産学センター長賞・審査員特別賞・優秀賞の8件のプレゼンテーションがあり、聴講者は、興味深く聞入っていた。第2部の特別講演は、日産自動車株式会社栃木工場 高岡洋海工場長



今回から設けられた宮代町長賞の授与

審査結果	氏名	プラン名
優秀賞(学長賞)	飯野 陽平 齊藤 優輔	電子ペーパーによる展覧会場での作成
優秀賞(宮代町長賞)	鈴木 雄真	キャラクター彫刻したガラス絵・ガラスの販売
優秀賞(センター長賞)	原 顕寛	STEMセルバッキング 幹細胞活用が当たり前の社会へ
優秀賞(審査員特別賞)	高野沢 隆弘 水野谷 啓希 宮本 祐也	3次元CAD学習システム
優秀賞	早瀬 央一	野菜果物のミステリーボックス販売
優秀賞	藤村 駿斗 荒井 大輝	安売りレンビブ案サービス
優秀賞	杉田 晃一	埼玉県産日本酒専門店

○印は共同応募の代表者です。
奨励賞受賞者につきましては下記URLをご覧ください。
http://www.nit.ac.jp/center/pdf/bpc5_final.pdf

第14回スターリングテクノラリー開催 今年も11月12日(土)に本学で開催予定

第14回スターリングテクノラリーが昨年11月13日(土)、本学で開催され、全国から計129台が参加した。人間乗車、宙返り耐久など5クラスに分かれ、自作スターリングエンジンを搭載した車両を競わせた。学内には熱心にマシン調整を行っている参加者の姿が見られた。当日は台湾の国立秀水高級工業職業学校生二十数名が来学し、競技の様子や展示されているエンジンを熱心に見学していた。



宙返り耐久クラスの競技の様子

STUDENT FACE '10



長田 知之君
情報工学科 4年
(王子工業高校出身)
学生環境推進委員会
前委員長

今年度のコンテストは全国の国立大学83校、公立大学77校、私立大学584校の計744校を対象にアンケート調査を実施。私立大学の有効回答数34校中第1位となったもので、全体でも4位という優秀な成績であった。これは既に全学的にISO14001を取得している本学において、大学側と学生環境推進委員会とが連携して積極的に学

今回のスチューデントフェイスは学生環境推進委員会の前委員長、長田君に話を伺った。本学は昨年「第2回エコ大学ランキンク」において、私立大学部門で第1位を受賞した。このコンテストは、CCC(Campus Climate Challenge)が主催し、全国大学の環境活動の現状を明らかにし、積極的に地球温暖化対策を行なっている大学を「エコ大学」としてランク付け、地球温暖化対策が活発化する事を目的としている。そのために、各大学の二酸化炭素排出状況、実践している地球温暖化対策、環境教育支援を調査し表彰するというものである。

内々の環境問題に取り組んだ結果であり、その成果が評価されたということである。本学では、特に学生の環境活動も活発で、その腕によるところも大きい。11月4日に「エコ大学ランキンク」の表彰式を終えた長田君に今回の受賞について聞いてみる。受賞は大変嬉しく名

誉なことだと思っっている。この受賞はまたま、自分たちの代となったが、今まで多くの委員や教職員、一般学生の努力があったことだと思っ

ている。本学は全国でも屈指のソーラー発電システムと環境整備を積極的に進めており、そのことが総合的に評価されて、今回の受賞となったと思う。そういう意味で、日工大関係者全ての受賞なので、なおさら嬉しいとのこと。彼が環境問題に興味を持ったのは大学生になった時で、以後、学内での活動は元より、他大学との交流会、宮代町のイベントや全国的な環境フォーラムへの参加など、多方面にわたって積極的な活動をしている。今年で卒業だが、後輩たちには、新委員長を中心とする活動を期待しており、彼自身も就職の決まっているIT関連企業において、在学時に経験した環境活動を十分に生かして行けるよう、がんばりたいと語ってくれた。



LCセンター映画視聴 BEST10

「映像ライブラリで見逃した映画を観よう」

LCセンターには、映像ライブラリという映画が視聴できるコーナーがあります。そこには視聴する機器が14台あり、ソフトの総数は約3500本です。昨年10月までの1年間の視聴回数には約3400回でした。1位は、世界興行収入1位になった「AVATAR」、やはりここでも1位に輝きました。2位・3位は、バトル・ロワイアル、人気の理由は地上波での放映がされていないことが考えられます。最新映画が随時追加されているので皆さんも視聴してみてくださいいかがでしょうか。

- 1 AVATAR (176回)
- 2 バトル・ロワイアル1 (130回)
- 3 バトル・ロワイアル2 (121回)
- 4 第9地区 (87回)
- 5 攻殻機動隊 DISK1 (82回)
- 6 イングロリアス・バスターズ (72回)
- 7 24シーズン1-1 (71回)
- 8 ジョブナイル (71回)
- 9 ミスト (64回)
- 10 アリスインワンダーランド (63回)



サイエンススクールでマイクロロボットを制作する参加者

日本工業大学と栃木市の連携事業 とちぎ市民学舎発見の森セミナー サイエンススクールin日本工業大学

2年目となる本学と栃木市の連携事業は、前年同様2つの事業を開催した。とちぎ市民学舎「発見の森セミナー」
栃木市が近隣の大学と連携して開催しているセミナーで、今回は生活環境デザイン学科の教員が11月20日から毎週土曜日(計4回)、栃木市民館において「高齢化社会の空間デザインを考える」と題して講義を行った。講義内容は下表を参照。
サイエンススクールin日本工業大学
11月20日(土)、栃木市の小学校4年生から6年生の20名が父母あるいは祖父母、兄弟と一緒にものづくり体験をした。開会式に続いてスチューデントラボで行われた「ものづくり体験」では、創造システム工学科の中里裕一教授の指導により「光源追跡マイクロ

とちぎ市民学舎「発見の森セミナー」 テーマと担当教員

第1回	「記憶の風景を支える持続型社会」	波多野純 教授
第2回	「高齢者の居住環境改善 (脳科学からみた回想効果)」	瀬戸真弓 教授
第3回	「ナイチンゲールに学んだ明治時代の病院デザイン」	勝木祐仁 准教授
第4回	「建築材料学からみた高齢化社会の住空間」	川村清志 教授

ロボット」、機械工学科の野口裕之准教授の指導により「おいしい綿あめ製造器」を製作した。小学生たちは心配そうに見つめる親や一緒に楽しそうに手伝ってくれる親のもとで、教員や学生の丁寧な指導を受けながら、順番を間違えないように真剣に取り組んでいた。午後には工業技術博物館や超高温圧研究センター等の施設を見学。蒸気機関車の体験乗車や落雷実験に興味津々の様子であった。

2×4木造建築工房 地元紙で紹介

本学カナダ研修所を拠点に活動している2×4木造建築工房の活動が地元紙2紙で取り上げられた。昨年の9月に、研修所が所在する町の財団と協力し、プレイハウス(子供達が遊ぶ小さな小屋)の建設に取り組んだ。



建設現場で撮影された2×4木造建築工房の活動の様子

本学総務・財務コンサルタント
藤森氏がネパールの親善大使に就任
を指名した。
藤森氏は88年5月24日、69歳という世界で5番目の高齢者として世界最高峰の山頂を征した。本学ではこの偉業をたたえ、09年1月に写真展を開催している。同氏は「世界のアルピニストの憧れであるヒマラヤの国の親善大使に任命され大変光栄です。自然とロマを求め是非一度訪れてください」と語っている。

宮代町 168号
今年も実施された
清掃美化活動
11月13日(土)、日工大の学生環境委員会が中心となって清掃美化活動が行われました。いつもお世話になっている地元で、恩返しをしたいという学生が集まり、3年前から東武動物公園駅西口から

宮代特別支援学校から 体験実習生を5日間受け入れ

埼玉県立宮代特別支援学校2年生の梅田彩可さんが11月15日(月)から19日(金)の5日間、経理課にて体験実習を行った。本学としては平成18年以来、3度目の受け入れである。
今回の実習では主に経理課通常業務にあたる、財務システムへの伝票入力作業、現金計算等を行った。初日は慣れない事もあり大変緊張していたが、2日目から

平成22年度補助金申請 4件採択

平成22年度私立大学等研究設備整備費等補助金の交付内定があった。
研究設備の「高速・高精度・微細加工加工システム」は、高アスペクト比の微細加工の高速化・高精度化及びマイクロ構造物の創成加工を目的としている。
教育基盤整備は、まず「ドラフター」の更新(製図板含む)により、機械システム

建築学科西川博美さんが 住宅課題賞の優秀賞を受賞



受賞作品 住宅課題賞

建築学科2年の西川博美さん(滋賀県立安曇川高等学校出身)が東京建築士会主催の第10回「住宅課題賞」で優秀賞を受賞した。同賞は、首都圏の建築系学科で開講している設計授業の中から、住宅課題における優秀作品を各学科1作品ずつ推薦し、それらを

ものづくり環境学科・創造システム工学科 合同講演会を開催

ものづくり環境学科は昨年11月、環境に優しい未来のクルマ「ロボットカー」を学科の実験科目用に1/10スケールモデルを導入し、創造システム工学科は、一昨年の教師型ヒューマノイドロボットに引き続き、実験科目用にヒューマノイドロボット20台を導入した。2学科は昨年12月4日(土)に、これらの教育用ロボットに関する話題を中心とした講演会を開催した。講演は、「ロボットの創り方」ものづくり技術を結集したロボットカーの開発」と題し、ウイストン株式会社R&Dセンター横山智彰氏と「ヒューマノイドロボット製作秘話」教師型ロボット「ニコット」の誕生」と題し、株式会社ゼットエムピー技術開発部篠原隆氏が行った。

KMUTT新学長が来学

タイの協定校、キングモンクット工科大学トンブリ校(KMUTT)学長のサカリン・プーミラット博士が昨年10月7日、初めて本学を訪れた。氏は科学技術開発庁長官から昨年度に就任した。
柳澤章学長との会談では、両校の密接な学術交流をさらに推し進めるため、教員・学生交流や共同研究を活発にすること等が話し合われた。



新学長のプーミラット博士 (前列右から2人目)

今年もボランティア清掃を実施

学生環境推進委員会が主催する通学路ボランティア清掃は今年で3回目になる。この取り組みは、宮代町内の美化と地域の活性化を目的としている。
昨年11月13日(土)11時東武動物公園駅西口に集合して、清掃を開始した。当日は、一般学生23名、学生自治会38名、教職員3名、宮代町民4名、高校生4名、社会



清掃してみると、多くのゴミがあることを実感

編集後記

「誰だって、ほんとうにいいことをしたら、いちゃばんしあわせなんだねえ。」宮沢賢治の代表作の一つ、「銀河鉄道之夜」の「ほんとうにいいこととは、自分自身が誰かの役に立つということだろう。理屈ではなく、人間には本来そうした要素が備わっているはずだからだ。」
▼では、その要素を私たちに与えてくれたのは、いったいどのような立場の人なのだろうか。皆さんはどう考える？両親？先生？数多くの先達？それとも？
▼宮沢賢治の世界では、それが「神の思召し」ということになっているようだ。どちらにしても、心の底から誰だかって・・・という言葉の意味を、この機会に噛みだまらせてみたい。そこにはまだまだだすたものでは隠れているからだ。▼
▼その見え隠れしている人の世を、はつきりと学生たちに指し示していくことが私たちの責務であるのかもしれない。▼年頭にあたり冒頭の言葉を学生の皆さんに贈りたい。住き年であらんとことを祈念する。「信」

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております。